

南九州西回り自動車道 土砂流入

・鹿児島県阿久根市赤瀬川において、5月21日の大雨により、土砂流入が発生。現地状況の詳細な把握及び復旧工法の検討のため、TEC-FORCEアドバイザーを被災地に派遣し、現地診断及び復旧工法について助言等を頂いた。

参加者: 鹿児島大学 ^{さこう}酒匂教授、^{いむら}井村准教授

● TEC-FORCEアドバイザーによる現地診断(令和7年6月4日)

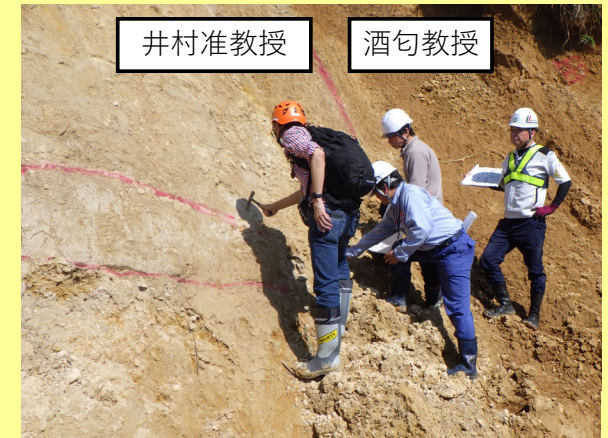
被災状況



応急復旧状況



現地診断



【TEC-FORCEアドバイザーの見解】

- ・起点側の火砕流堆積物の下位の段丘堆積砂礫は、滞水層と推測できるため、湧水への対策を要する。
- ・被災地法面背後地の市道法面では、好天時でも水向きパイプからの滲水が確認されたことから、背後地から浸透水を有していることが考えられる。
- ・応急対策としては、火砕流堆積物の変状進行範囲を、大型土のうによる抑え盛土などの対策を講じること。
- ・恒久対策としては、被災を受けた法面に対して、カゴマットや法粹工等で、透水性を確保した工法を選定することが望ましい。